**経営課題１**　【子どもたちが輝くまちづくり】

計画

【主なSDGｓゴール】

## めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

未来の担い手であるすべての子どもが、家庭や地域で愛されながら、個性豊かに、たくましく育っていくよう、区民がより安心して子育てができ、子どもたちが夢と希望を持って学ぶことのできる環境の実現をめざす。

## 現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

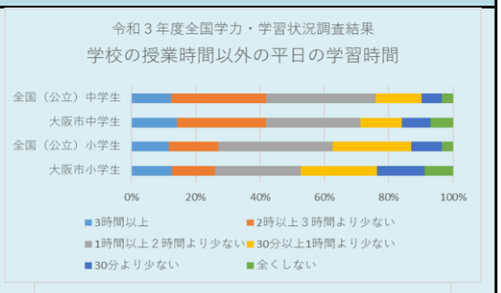
・様々な主体が子育て支援・相談を実施しているが、十分に知られていない、または、利用されていない状況にある。

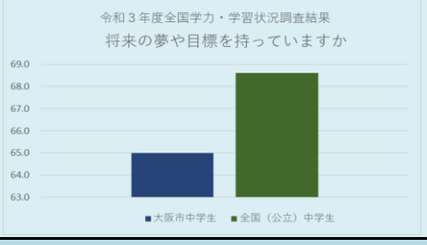
・全市で重大虐待ゼロに向けた取り組みを進めている。
・乳幼児健診受診率 は90%を超えている。
・令和2年度に当区保健福祉センターで受けた児童相談数（新規等）は318件であり、うち虐待相談件数は126件である。そのうちの約50%がネグレクト（育児放棄・生活環境不良など）である。
（R2年度福祉行政報告例より）

・全国学力・学習状況調査における本市小学生ならびに中学生の平均正答率はすべての科目において、国平均を下回っており、区においても同様の傾向がある。また、本市の小学生及び中学生は国に比べて授業以外の学習時間が少ない傾向があり、区においても同様の傾向がある。近年その傾向は変わらない。

・平成29年度大阪市「子どもの生活に関する実態調査」においては、大阪市全体と比較して、経済的な理由で子どもの学力向上に金額をかけられない家庭が多い傾向がある。

・全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という質問における区内小学生ならびに中学生の肯定的な回答についても、いずれも本市の小学生・中学生は国平均を下回っており、区においても同様の傾向があり、近年その傾向は変わらない。






## 要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・経済的な状況や親のネグレクトなど、子ども本人ではなく、子どもをの置かれた家庭環境に起因して、子育てや学習に関する必要な支援や見守りが受けられていないケースが多くある。
・子育てを支援する公的なサービスが十分に認知されておらず、利用が低調であったり、区役所等に相談に行くことへの心理的な抵抗感から、悩みや不安、負担感が十分に解消されないまま子育てを行っている場合がある。
・子どもたちが将来の夢や希望といった目標を持ちにくい状況にある。加えて、自己肯定感が低いことなどから学習意欲につながらない状況にある。

## 課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【子どもが笑顔で育つ環境の実現に向けて】
・本人や家庭への支援が必要な児童、生徒に対し、こどもサポートネット事業の充実など、社会全体で支える仕組みを強化するとともに、周囲の目が行き届きにくい就学前の子育て世帯に対しては、切れ目のない相談、サポートが可能となるよう、見守り環境の整備を進める必要がある。
・子育てに関する様々な支援や相談窓口、交流の場の機能充実を図るとともに、これらに関する情報が、直接子育て世帯に分かりやすく、効果的に伝わるよう関係機関との連携やすみのえ情報局の活用など情報にアクセスしやすい方法を検討する必要がある。
【子どもたちの「生き抜く力」を育成に向けて】
・放課後等を活用した学習の場の提供や学習意欲の向上、学習習慣を身に付けるための支援など、児童、生徒の学力向上に向けた取組を充実する必要がある。
・子どもたちが自分で未来を切り開いていけるよう、将来に向かって自ら挑戦する精神や課題を解決する力を身につけたり、学習目的を見つけたりすることができる機会を提供していく必要がある。

自己評価

## 戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

## めざす成果及び戦略　１－１【子どもたちが笑顔で育つ環境の実現】

**計画**

| めざす状態＜概ね３～５年間を念頭に設定＞ | 戦略（中期的な取組の方向性） |
|---|---|
| 区役所、学校等各関係機関と地域や民間の区内のこども支援に取り組む様々な主体の連携協働のもとで、さまざまな子育て支援や相談に関する活動が展開されることで、未来の担い手であるすべての子どもが、誰一人取りこぼされることなく、支援が必要な場合に必要な支援を受けられる状態。 | 妊娠・出産期、乳幼児期、学齢期、青少年期の各ステージに応じて切れ目なく子育てをサポートするとともに、課題を抱える家庭、子どもへの支援などを行う。<br>また、子育ての悩みを皆で相談しあったり、子育てに関する有益な情報が確実で簡単に入手できる環境の整備を進める。 |
| アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） | |
| ・令和7年度末までに、区民アンケートで子育てを現在している人のうち、「子育て支援室を知っている」もしくは「相談したことがある」と回答する割合 60%以上<br>・年間を通じて重大虐待事案が発生しない状態の継続 | |

**自己評価**

| 戦略のアウトカム指標に対する有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、戦略を見直す |
|---|---|---|

| アウトカム指標の達成状況 | 前年度 | 個別 | 全体 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |

A：順調　B：順調でない

| 戦略の進捗状況 | | a：順調<br>b：順調でない |
|---|---|---|

| 課題　※有効性が「イ」の場合は必須 |
|---|
| |
| **今後の対応方向　※有効性が「イ」の場合は必須** |
| |

---

## 具体的取組１－１－１【支援が必要な児童、生徒への取組】

| ２決算額 | － 円 | ３予算額 | － 円 | ４算定見込額 | － 円 |
|---|---|---|---|---|---|

**計画**

| 当年度の取組内容 | プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） |
|---|---|
| ・学校等と連携し、支援の必要な児童を発見するとともに、児童や保護者の状況や悩みを傾聴し、地域による子ども支援の取組みや、児童支援に取り組むNPOなど民間の取組みを含めた利用可能な支援を提案し、児童や保護者のニーズに合わせて利用に向けたサポートを行う。 | ・こどもサポートネットにおいて、区役所がアウトリーチできたケースのうち、支援につながった割合　75%以上<br><br>【撤退・再構築基準】<br>・上記割合が20%未満であれば事業を再構築する。 |
| | **前年度までの実績** |
| | 【2年度】55.2%<br>【元年度】75.4%<br>【30年度】66.7% |

**中間振り返り**

| プロセス指標の達成状況 | | |
|---|---|---|

①：目標達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>ー：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

| 課題と改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 |
|---|
| |

**自己評価**

| 当年度の取組実績 | 課題　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 |
|---|---|
| | |
| **プロセス指標の達成状況** | **改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須** |
| | |

①：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成 （ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>ー：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

## 具体的取組１－１－２ 【全就学前児童への切れ目のない見守り環境の整備】

| ２決算額 | 7,298 円 | ３予算額 | 10,322 円 | ４算定見込額 | 10,322 円 |
|---|---|---|---|---|---|

**計画**

**当年度の取組内容**

・乳幼児健診や、地域担当保健師・子育て支援室等による相談対応、保育所（園）・幼稚園等との連携、４歳児を対象とした訪問等を通じて、妊娠期から就学に至るまでの間、切れ目なく子どもの状況を把握するとともに必要な支援を行う。
・特に区独自の取組として、２歳児を養育する保護者に対し、養育状況や困りごと、支援希望等を問うアンケートを実施するとともに、希望する家庭やアンケート未回答の家庭を訪問し、養育状況や困りごとを把握し、支援メニューの提案を行う。

**プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）**

・２歳児を養育する保護者を対象としたアンケートの回答率　70%以上

【撤退・再構築基準】
・上記アンケートの回答率が年間平均で50%未満であれば事業を再構築する。

**前年度までの実績**

【3年度】
・84.9%（実施数338件　回答数287件）（3年8月末現在）
【2年度】
・82.9%（実施数585件　回答数485件）

**中間振り返り**

**プロセス指標の達成状況**

①：目標達成(見込)（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

**課題と改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**自己評価**

**当年度の取組実績**

**課題**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**プロセス指標の達成状況**

①：目標達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

**改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

## 具体的取組１－１－３ 【相談機能、情報発信の強化と交流の場の充実】

| ２決算額 | 181 円 | ３予算額 | 257 円 | ４算定見込額 | 257 円 |
|---|---|---|---|---|---|

**計画**

**当年度の取組内容**

・子ども・子育てプラザをはじめ区内の子育てに関わる各種機関と連携し、子育てマップ（年１回）や子育て情報紙「わいわい」（年12回）を発行するとともに、子育て層がアクセスしやすいよう、HPやSNS、デジタルマップなどICTを用いて、子育てに関する有益かつタイムリーな情報発信を推進する。
・区役所子育て支援室において、保育士・保健師・家庭児童相談員による子育て相談を継続する。

**プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）**

①子育て世帯保護者アンケートで「区が発信する子どもや子育てに関する情報を入手したことがある」と回答する割合　90%以上
②区民アンケートで「相談機関として子育て支援室を知っている」と回答する割合　40%以上

【撤退・再構築基準】
①の割合が45%未満かつ②の割合が15%未満である場合は事業を再構築する。

**前年度までの実績**

【2年度】
・「区が発信する子どもや子育てに関する情報を入手したことがある」と回答した割合　91%
【元年度】
・「子育て情報が入手しやすい」に対して肯定的な回答した割合　85%
・「子育て相談の環境が整っている」に対して肯定的な回答した割合　90%
・「子育て支援室を知っている」と回答した割合　40%
【30年度】
・「子育て情報が入手しやすい」に対して肯定的な回答した割合　79%
・「子育て相談の環境が整っている」に対して肯定的な回答した割合　90%

**中間振り返り**

**プロセス指標の達成状況**

①：目標達成(見込)（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

**課題と改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**自己評価**

**当年度の取組実績**

**課題**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

・特殊詐欺被害防止キャンペーン

**改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

①：目標達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

## めざす成果及び戦略　１－２【「生き抜く力」の育成】

**計画**

| めざす状態＜概ね３～５年間を念頭に設定＞ | 戦略（中期的な取組の方向性） |
|---|---|
| 社会が多様化する中で、子どもたちが「生き抜く力」を身につけ、自分らしい未来を切り拓けるよう学ぶことができている状態。 | 地域や民間との連携のもと、誰もが安心して勉強ができる環境の充実を図り、学習を楽しむ体験をすることで、学習意欲が向上するよう促す。また、知識だけでなく、学ぶ意欲や、課題を見つけ解決していく力を養い、将来の夢や目標に向かってチャレンジする気持とやり抜く力を育む。 |
| アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） | |
| 令和7年度末までに、全国学力・学習状況調査等のアンケート結果における区内中学生への「将来の夢や目標」に関する質問に対する肯定的な回答の割合70%以上 | |

**自己評価**

| 戦略のアウトカム指標に対する有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、戦略を見直す |
|---|---|---|

| アウトカム指標の達成状況 | 前年度 | 個別 | 全体 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |

A：順調　B：順調でない

| 戦略の進捗状況 | | a：順調<br>b：順調でない |
|---|---|---|

| 課題　※有効性が「イ」の場合は必須 |
|---|
| |
| **今後の対応方向　※有効性が「イ」の場合は必須** |
| |

## 具体的取組１－２－１【児童、生徒の学力向上に向けた取組】

| ２決算額 | 5,206千 円 | ３予算額 | 8,378千 円 | ４算定見込額 | 10,022千 円 |
|---|---|---|---|---|---|

**計画**

| 当年度の取組内容 | プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） |
|---|---|
| ・こどもサポートネット事業の対象となる児童・生徒を中心に、学校やスクールソーシャルワーカー、福祉関係者等と連携し、それぞれの理解度や特性に合わせた少人数体制での学習支援を行う。約120名の児童・生徒を対象に小学校14校、中学生用拠点等で実施する。<br>・放課後の学校施設を利用し、大阪市塾代助成事業を活用した民間の塾事業者との連携による課外授業を週2回程度行う。加賀屋塾（加賀屋中学校）、南港塾（南港南中学校）、真住塾（真住中学校）の計3か所で年間計270回程度実施する。 | ・対象児童・生徒に対するアンケート調査において、「勉強がよくわかるか」という問いに対し、肯定的な回答の割合<br>小学生　80%以上<br>中学生　65%以上<br><br>【撤退・再構築基準】<br>・上記割合のいずれかが40%未満であれば事業を再構築する。 |
| | **前年度までの実績** |
| | 【3年度】<br>・小学校4校、中学生用拠点1拠点にて学習支援を実施（3年9月末現在）<br>・加賀屋塾・南港塾・真住塾を開設 し、学習環境の場を設定　134回実施（3年9月末現在）<br>【2年度】<br>・小学校10校、中学校5校に学習指導員を派遣（新型コロナウイルス感染症対策のため一部休止）<br>・加賀屋塾・南港塾を開設し学習環境の場を設定　年間169回（新型コロナウイルス感染症対策のため一部休止）<br>【元年度】<br>・小学校8校、中学校6校に学習指導員を派遣（新型コロナウイルス感染症対策のため一部休止）<br>・加賀屋塾・南港塾を開設し学習環境の場を設定　年間173回（新型コロナウイルス感染症対策のため一部休止） |

**中間振り返り**

| プロセス指標の達成状況 | | |
|---|---|---|

①：目標達成(見込)（ｉ）取組は予定どおり進捗 （ⅱ）取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ｉ）取組は予定どおり進捗 （ⅱ）取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>―：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

| 課題と改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 |
|---|
| |

**自己評価**

| 当年度の取組実績 | 課題　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 |
|---|---|
| | |
| **プロセス指標の達成状況** | **改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須** |
| | |

①：目標達成　（ｉ）取組は予定どおり実施 （ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成 （ｉ）取組は予定どおり実施 （ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>―：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

## 具体的取組１－２－２　【チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり、学習の目的を見つけたりする機会づくり】

| ２決算額 | －円 | ３予算額 | －円 | ４算定見込額 | －円 |
|---|---|---|---|---|---|

### 計画

**当年度の取組内容**

・小中学生を対象に、チャレンジ精神、創造性、探究心等の「起業家精神」や、情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等の「起業家的資質・能力」の育成を目指す起業家教育を題材としたワークショップ等を開催する。
・学校生活や普段の生活においても、自分の夢や目標を描き、自分の考えを持つとともに相手の意見を聞きながら、未来に向かって挑戦する力を育む。
【個人参加プログラム】区内中学生・小学校高学年計300名を対象に、オンライン講座を中心に実施する。

**プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）**

・ワークショップ等に参加する児童・生徒対象のアンケートにおいて、起業への関心やワークショップの理解度について肯定的な回答の割合
　小学生　80%以上
　中学生　65%以上

【撤退・再構築基準】
・上記割合のいずれかが20%未満であれば事業を再構築する。

**前年度までの実績**

【3年度】
・【個人参加プログラム】8月に区内2会場で小学校6年生と中学生計18名を対象に実施　（3年9月末現在）
・【授業プログラム】11月に区内小学校2校6年生計80名を対象に実施　（3年9月末現在）

### 中間振り返り

**プロセス指標の達成状況**

①：目標達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗　（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗　（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

**課題と改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

### 自己評価

**当年度の取組実績**

**課題**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**プロセス指標の達成状況**

①：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施　（ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施　（ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

**改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

## 経営課題２　【すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり】

計画

【主なSDGｓゴール】

### めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

地域の人々や様々な機関が、それぞれの立場でできることを行い、できないところはお互いに連携し取り組んでいくことで、すべての人々が温かく見守られたり、必要な支援を受けながら、住み慣れた地域に愛着を持ち、自分らしい暮らしを安心して送ることができるまちをめざす。

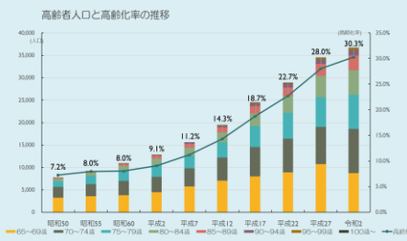
### 現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

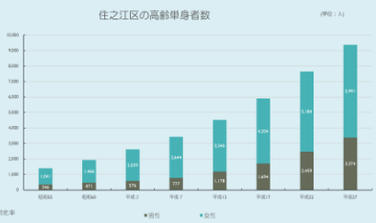
・区民アンケートで「地縁型団体が行う活動に参加している」と回答した割合

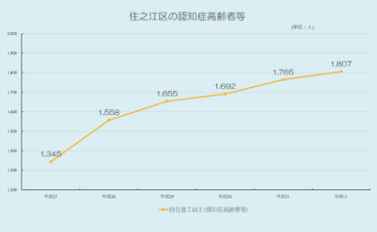
・区民アンケートで「地域活動協議会を知っている」と回答した割合

・区民アンケートで「各団体により地域の特性や課題に応じた活動が進められていると感じている」と回答した割合

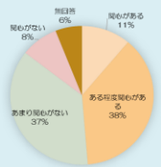
・高齢者が年々増加し、半数近くが後期高齢者となっており、一人暮らし高齢者、認知症高齢者も増加している。
・地域福祉活動に関心があっても、参加したことがある人は少ない。
・地域の人々を中心に様々な地域福祉活動が行われているが、登下校時の見守り活動や防災、高齢者の居場所づくりの活動のほかは認知度は決して高いとは言えない。
・新型コロナ感染症の対応として、三密の回避、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い、手指消毒といった「新しい生活様式」を日常化していくことが求められている。



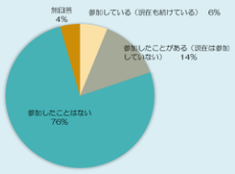



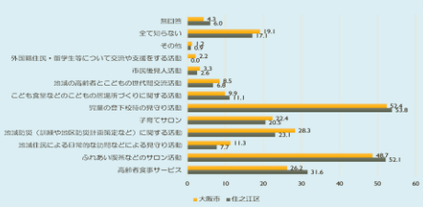

地域福祉活動への関心度（住之江区）




地域福祉活動への参加経験（住之江区）




地域福祉活動の認知度




令和元年度大阪市における地域福祉にかかる実態調査（世論調査）

### 要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・地域活動の担い手の高齢化が進む一方で、次世代の地域活動の担い手である若い世代の地域イベントや活動への参加が進んでおらず、地域活動の継続に影響が生じている。
・地域活動協議会内での課題解決のための構成団体等の相互連携が不足している。また、各地域毎の固有の魅力が住民の間で共有されていなかったり、地域の誇りとして地域外に十分に発信されていないことが多い。
・社会の高齢化、複雑化、多様化に対応した、よりきめ細かい福祉や健康、医療等に関する施策の整備を進めているが、これらが、必要とする人・対象に十分に行き届いていないケースがある。
・一人暮らしの高齢者の増加や人間関係の希薄化により、かつてはどこの地域でも見られた、何らかの支援を必要とする人たちへの見守り、声かけ、手助けといった、お互いが支えあうという意識の低下が進んでいる。

### 課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【地域の活力と魅力の向上に向けて】
・既存の地域団体に加え、企業・NPOや学校をはじめとしたより幅広い人材、団体など、多様な主体による地域活動及び主体間の相互連携の一層の活性化を図るとともに、地域の自主財源の強化のためのサポートや、新たな地域活力を創出するためのICT活用など、地域活動協議会の自律的な運営をより一層促進する必要がある。
・既存の地域イベントだけでなく、地域の魅力の再発見、新たな魅力の創出につながるよう、ICTの活用も行いながら、地域の魅力の共有と発信が一層進むよう取り組む必要がある。
【支え見守りあう地域づくりに向けて】
・福祉関連施策をより着実に推進するとともに、多様化、高度化する社会環境に柔軟に対応できるよう、関係機関との相互連携を一層強化するなど、支援を必要とする人に寄り添い支える地域づくりを一層進める必要がある。
・地域福祉計画や広報紙などによる啓発や、地域での見守りの担い手である「見守りあったかネットサポーター」の養成、区社会福祉協議会と連携などによる地域福祉の一層の充実を図る必要がある。

自己評価

### 戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

## めざす成果及び戦略　２－１【地域の活力と魅力の向上】

**計画**

**めざす状態＜概ね３～５年間を念頭に設定＞**

・個人、地域団体、NPO、企業等による活発で多様な活動を源泉にしたまちづくりにより、地域の活気と魅力が向上している状態。
・地域特性に即した地域課題（防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなど）の解決に向けた取組が自律的に進められている状態。

**アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）**

・令和7年度末までに、区民アンケートで、校区等地域において様々な活動主体が協働し、その話し合いのもと合意を形成し自ら地域課題の解決に取り組むなど、地域が自律的に運営されていると肯定的に感じていると回答する割合　90%以上

**戦略（中期的な取組の方向性）**

・各地域での祭りや近所の清掃、住民同士の交流や助け合いなど、様々な活動が将来にわたって自律的により活発なものとして発展していけるよう、環境づくりを進める。また、自分の暮らす地域への誇りや愛着は、充実した日常生活を送るうえで重要であり、こうした機運を高めていくための環境や仕組みづくりを進める。
・地域活動協議会のめざすべき姿に向けて、地域の実情に即したきめ細かな支援を行い、仕組みの定着を図ることで、より多くの住民参加による自律的な地域運営を実現する。

**自己評価**

| 戦略のアウトカム指標に対する有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、戦略を見直す |
|---|---|---|

| アウトカム指標の達成状況 | 前年度 | 個別 | 全体 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |

A：順調　B：順調でない

| 戦略の進捗状況 | | a：順調<br>b：順調でない |
|---|---|---|

**課題**　※有効性が「イ」の場合は必須

**今後の対応方向**　※有効性が「イ」の場合は必須

---

## 具体的取組２－１－１【多様な主体による地域の活気と魅力づくり】

| ２決算額 | 57,773千 円 | ３予算額 | 59,011千 円 | ４算定見込額 | 59,031千 円 |
|---|---|---|---|---|---|

**計画**

**当年度の取組内容**

・地域の内外の人材、資金、地域情報等の地域資源を活用しながら、次世代の担い手確保等の地域課題を解決するために、中間支援組織と連携しながら 企業・NPO・学校・地域交流会 を開催する。また、交流会でできたつながりをもとに地域課題の解決に向けた協働取組の支援を行う。

**プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）**

・地元企業、NPOの人材、資金、地域情報等の地域資源を活用した地域活動の実施　12件以上

【撤退・再構築基準】
・上記実績が8件以下であれば事業を再構築する。

**前年度までの実績**

【3年度】
・地域資源を活用した地域活動の実施　4件（3年9月末現在）
・地域活動応援サークルイベント部会会議　7回（3年9月末現在）
・地域活動応援サークル　イベント　5回（3年9月末現在）
【2年度】
・地域資源を活用した地域活動の実施　1件
・地域活動応援サークルイベント部会会議　12回
・地域活動応援サークル　イベント　1回
【元年度】
・地域資源を活用した地域活動の実施　10件
・地域のふれあい喫茶に学生がボランティアとして参加　4地域
・担い手拡大ワーキングを開催　10回
・防災ママ学習会　1地域

**中間振り返り**

| プロセス指標の達成状況 | | |
|---|---|---|

①：目標達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>―：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

**課題と改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**自己評価**

**当年度の取組実績**

**課題**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**プロセス指標の達成状況**

**改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

①：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成（ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>―：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

## 具体的取組２－１－２ 【地域活動協議会による自律的な地域運営の促進】

| ２決算額 | － 円 | ３予算額 | － 円 | ４算定見込額 | － 円 |
|---|---|---|---|---|---|

**計画**

**当年度の取組内容**

・各地域活動協議会でホームページの開設等ICTを活用した取組を支援する。
・地域活動協議会が実施するイベント等で、地域活動協議会の活動紹介チラシを配布する。
・地域活動協議会の意義や求められる準行政的機能や総意形成機能について、地域活動協議会の役員や構成団体、地域住民の理解が深まるよう地域活動協議会の会長会や運営委員会などにおいて、積極的に発信する。

※予算・決算額は【2-1-1】にて一括計上

※準行政的機能とは・・・
行政が地域に委ねるべき分野で及びタオ市民活動団体の活動対象とならない分野をカバーすること

※総意形成機能とは・・・
校区等地域における将来像を共有し、住民の様々な意見の調整・取りまとめを行う機能

**プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）**

①地域活動協議会の構成団体が自分の地域に即した支援を受けることができていると感じた割合　90%以上
②地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に求められている準行政的機能を認識している割合　85%以上
③地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に求められている総意形成機能を認識している割合　87%以上

【撤退・再構築基準】
①上記割合が70%未満であれば事業を再構築する。
②③上記割合が60%未満であれば事業を再構築する。

**前年度までの実績**

【3年度】
・各地域活動協議会でICTを活用した取組が進むよう、中間支援組織と連携した支援として、すみのえ動画講座を開催予定。（全地域）
・地域活動協議会の会長会や運営委員会等の機会を捉え、準行政的機能、総意形成機能について説明予定。
【2年度】
・各地域活動協議会でICTを活用した取組が進むよう、中間支援組織と連携し支援。（清江）
・地域活動協議会の会長会や運営委員会等の機会を捉え、準行政的機能、総意形成機能について説明。
【元年度】
・各地域活動協議会でホームページの開設等ICTを活用した取組が進むよう、中間支援組織と連携し支援。（加賀屋、花の町）
・地域活動協議会の会長会や運営委員会等の機会を捉え、準行政的機能、総意形成機能について説明。

**中間振り返り**

プロセス指標の達成状況

①：目標達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

戦略に対する取組の有効性

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

課題と改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**自己評価**

当年度の取組実績

課題　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

プロセス指標の達成状況

①：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成 （ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

戦略に対する取組の有効性

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

## 具体的取組２－１－３ 【地域の魅力の共有と発信】

| ２決算額 | － 円 | ３予算額 | 4,473千 円 | ４算定見込額 | 4,459千 円 |
|---|---|---|---|---|---|

**計画**

**当年度の取組内容**

・住之江区内の関連団体等が情報発信者となって、住之江区の歴史・文化や地域活動、企業活動の様子、区の取組などを動画、写真、記事等で発信することができるポータルサイト「すみのえ情報局」を運営し、その活用を促進する。
・住之江区内の関連団体等への動画制作支援等を行う。

**プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）**

・ポータルサイトを活用して情報発信を行った件数　50件以上

【撤退・再構築基準】
・上記実施件数が20件未満の場合は、事業を再構築する。

**前年度までの実績**

【3年度】
・ポータルサイト「すみのえ情報局」の開設（令和4年2月予定）
・動画制作・発信講座等の開催

**中間振り返り**

プロセス指標の達成状況

①：目標達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

戦略に対する取組の有効性

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

課題と改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**自己評価**

当年度の取組実績

課題　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

プロセス指標の達成状況

①：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成 （ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

戦略に対する取組の有効性

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

## めざす成果及び戦略　２－２【支え見守りあう地域づくり】

**計画**

| めざす状態＜概ね３～５年間を念頭に設定＞ | 戦略（中期的な取組の方向性） |
|---|---|
| 地域の誰もがちょっとした声掛けなどを通じて地域の気になる方を温かく見守りあうとともに、支援を必要とする人の抱える課題に対して、さまざまな分野の関係機関が連携協力し、より課題に即した支援を提案出来るようになっている状態。 | 複雑化・多様化する福祉課題に対して、福祉関連施策を着実に推進するとともに、多様な関係機関のネットワークの充実を図り、区民に寄り添い、誰もが安心して生涯が送れるまちづくりを進める。また、住み慣れた地域で、誰もが自分らしく安心した生活が送れるよう、地域の中で互いに支え合いながら、自分らしく活躍できるコミュニティづくりを進める。 |
| アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） | |
| 令和7年度末までに、区民アンケートで「生活している中で地域との「つながり」を感じることがありますか」に対して、肯定的な回答をする割合 60%以上 | |

**自己評価**

| 戦略のアウトカム指標に対する有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、戦略を見直す |
|---|---|---|

| アウトカム指標の達成状況 | 前年度 | 個別 | 全体 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |

A：順調　B：順調でない

| 戦略の進捗状況 | | a：順調<br>b：順調でない |
|---|---|---|

課題　※有効性が「イ」の場合は必須

今後の対応方向　※有効性が「イ」の場合は必須

## 具体的取組２－２－１【安心を提供する福祉施策の推進】

| 2決算額 | － 円 | 3予算額 | － 円 | 4算定見込額 | － 円 |
|---|---|---|---|---|---|

**計画**

| 当年度の取組内容 | プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） |
|---|---|
| ・区役所の保健福祉・生活支援分野を担当する職員が、区民の困りごとに対してより的確な支援につなげるよう、福祉・健康・医療・暮らしの支援などの各種公的制度のほか、地域やNPO等の実施する支援についても情報共有し、相談対応力の向上を図る。<br>・個別の支援にあたっては、関係機関の情報共有・連携のため、関係法令に基づく会議のほか、総合的な支援調整の場（つながる場）及び生困シェア会議などの積極的な活用を進める。 | ・区役所の保健福祉・生活支援分野を担当する職員を対象としたアンケートで「福祉施策に関する課題解決に向けて適切な支援につなげることを可能とする感度が上がったと思う」と回答する割合　60%以上<br>【撤退・再構築基準】<br>・上記割合が20%未満であれば事業を再構築する。 |
| | 前年度までの実績 |
| | 【3年度】<br>・要援護者名簿を用いた見守り活動に関する研修を開催する予定　（3年9月末現在）<br>【2年度】<br>・福祉関係者を対象とした高齢者等の住まい方を含めた支援方策について検討するセミナー　1回　参加者 23名<br>・区内において認知症高齢者の支援に関わる関係者など多職種向けの研修の開催（コロナ禍のためリモートにより実施）　1回　参加者 59名<br>【元年度】<br>・福祉と家の関係に関する多職種による意見交換会・セミナー　1回　参加者 50名 |

**中間振り返り**

| プロセス指標の達成状況 | | |
|---|---|---|

①：目標達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗　（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗　（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>―：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

課題と改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**自己評価**

当年度の取組実績

課題　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

プロセス指標の達成状況

| | |
|---|---|
| | |

①：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施　（ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施　（ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>―：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

## 具体的取組２－２－２　【地域福祉の充実】

| 2決算額 | 12,167千 円 | 3予算額 | 12,167千 円 | 4算定見込額 | 12,165千 円 |
|---|---|---|---|---|---|

### 計画

**当年度の取組内容**

・ちょっとした声掛けや見守りといった地域福祉の取組への参加を促進できるよう、住之江区地域福祉計画に基づく各地域の取組や課題を把握し、広報紙で紹介するなど啓発を行う。
・各地域や企業、学校等において、高齢者、障がい者、児童などに対する地域の見守り活動の担い手である「見守りあったかネットサポーター」を養成する。
・区社会福祉協議会と連携し、要援護者名簿の活用や新しい生活様式を踏まえた見守り等、地域福祉活動に関する先進的な取組を各地域と共有するとともに、地域福祉活動や研修等でのICTの活用について、地域、関係機関とともに検討する。

**プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）**

・区民アンケートで「地域福祉活動について関心がある・ある程度関心がある」と回答する割合　50%以上
・区民アンケートで「地域福祉活動に参加している・参加したことがある」と回答する割合　20%以上
（※地域福祉活動の例：高齢者食事サービス、ふれあい喫茶などのサロン活動、日常的な訪問による見守り活動　など）

【撤退・再構築基準】
・「地域福祉活動について関心がある・ある程度関心がある」の割合が20%未満であれば事業を再構築する。

**前年度までの実績**

【3年度】
・地域向けの見守りあったかネットサポーター養成講座　2回　参加66人（3年9月末現在）
・福祉会館でのワクチン接種予約相談件数　253件（3年6月末現在）
・ICT機器（タブレット等）を活用した地域との連携会議開催　2回（3年9月末現在）
【2年度】
・コーディネーター相談件数　2,230件（延べ人数）
・見守りあったかネットサポーター養成講座　3回　参加148人
（あったかネットリーダー・コーディネーター・サポーター合同研修を含む）
・あったかネットコーディネーターによる、ICT機器（タブレット）とオンライン会議ツール（ZOOM等）の利用に関する実技研修を実施　2回　参加35人
・区広報紙を用いた地域福祉活動、要援護者名簿の啓発　1回
【元年度】
・地域向けの見守りあったかネットサポーター養成講座　12回　参加423人
・企業向けの見守りあったかネットサポーター養成講座　6回　220人
・同リーダー・コーディネーター研修　2回、参加33人
・コーディネーター相談件数1,841件(延べ)

### 中間振り返り

**プロセス指標の達成状況**

①：目標達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

**課題と改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

### 自己評価

**当年度の取組実績**

**プロセス指標の達成状況**

①：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施（ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成（ⅰ)取組は予定どおり実施（ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

**課題**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

## 経営課題３　【安全・安心なまちづくり】

計画

【主なSDGｓゴール】

### めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

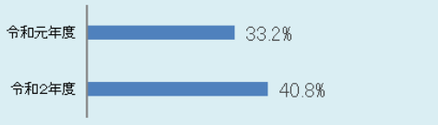
大規模地震や津波、水害等の自然災害に対し、自助・近助・共助・公助による備えのできた防災力の高いまちを目指す。また、ひったくりや路上強盗、特殊詐欺等、犯罪のない安心して暮らせるまちをめざす。

### 現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

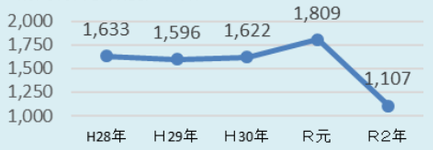
・津波による死者・負傷者・重傷者数（H26年1月大阪府南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会より）

・区民アンケートで「自宅の浸水想定を知っている」と回答した割合

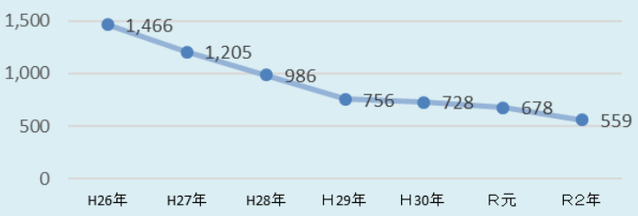
・区民アンケートで「お住いの地区では、共助による備えが出来ていると思う」と回答した割合




・府内特殊詐欺認知件数




・区内街頭犯罪発生件数




・区内特殊詐欺認知件数

### 要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・災害時に被害をできる限り軽減するには、区民が災害の種類に応じた被害想定を把握する必要があるが、こうした情報が十分に行き届いているとは言えない状況にある。
・大規模災害においては地域の総合的な力により災害に備える必要があるが、共助に対する意識は十分ではなく、また地域防災の中心を担う地域防災リーダーの高齢化が進んでいる。
・区内の街頭犯罪発生件数は年々減少しており、警察、区役所、区民が取り組む防犯対策が一定の効果を得ている。しかしながら、特殊詐欺の認知件数は、減少傾向にあるものの、未だ高水準で推移している。

### 課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【災害に負けないまちづくりに向けて】
・阪神・淡路大震災において自力脱出困難者の大多数は家族・近隣住民に救出された経験を踏まえ、「自助」「近助」に対する一層の意識の向上が必要である。
・避難カードやeラーニングなど、効果的な手法を積極的に活用しながら、自助・近助・共助による防災力の向上と多数の人材育成により一層取り組む必要がある。
・避難所の拡充と避難所での物資の充実、災害に関する情報や避難所の所在を分かりやすく示す表示板整備など、減災のための環境を一層整備する必要がある。
【犯罪の少ない安心して暮らせる環境の実現に向けて】
・各種キャンペーンや出前講座などを通じ、特殊詐欺などの巧妙化する犯罪手口に関する情報の普及や注意喚起など、防犯意識向上に向けた意識啓発を、より一層進める必要がある。
・青色防犯パトロールカーの巡回やキャンペーン活動、防犯カメラの適切な維持など、街頭犯罪防止のための環境整備に引き続き取り組む必要がある。

自己評価

### 戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

## めざす成果及び戦略　３－１【災害に負けないまちづくり】

**計画**

| めざす状態＜概ね３～５年間を念頭に設定＞ | 戦略（中期的な取組の方向性） |
|---|---|
| 各家庭での災害への備えに対する「自助」、自主防災組織より身近で隣近所で助け合う「近助」、地域で助け合い被害拡大を防ぐ「共助」、区民の防災意識向上の啓発を行う「公助」で、総合的に災害に備えることができている状態。 | 災害への知識を深め、十分に備えることで一人ひとりが災害に対して当然のように対応できる、自助・近助・共助による防災力を高める。<br>また、災害時に身の安全が確保できる避難所の拡充をはかるとともに、一人ひとりが避難行動を円滑に行えるよう、わかりやすく災害情報を得られるまちづくりを進める。 |
| アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） | |
| 令和7年度末までに、区民アンケート で「お住いの地域や家庭で災害に対する備えができている」と回答する割合　60%以上 | |

**自己評価**

| 戦略のアウトカム指標に対する有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、戦略を見直す |
|---|---|---|

| アウトカム指標の達成状況 | 前年度 | 個別 | 全体 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |

A：順調　B：順調でない

| 戦略の進捗状況 | | a：順調<br>b：順調でない |
|---|---|---|

課題　※有効性が「イ」の場合は必須

今後の対応方向　※有効性が「イ」の場合は必須

---

## 具体的取組３－１－１【自助・近助・共助による防災力の向上と圧倒的多数の人材育成】

| ２決算額 | 5,928千 円 | ３予算額 | 3,703千 円 | ４算定見込額 | 5,261千 円 |
|---|---|---|---|---|---|

**計画**

| 当年度の取組内容 | プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） |
|---|---|
| ・防災意識の向上に向け、町会や自主防災組織をはじめ、学校や民間企業等の幅広いコミュニティ層に対して、研修や出前講座などの機会を捉え、ICTを活用した防災人材育成プログラムを提供する。<br><br>・地域防災力向上に向け、防災アドバイザーを活用した地域防災訓練等の支援、地域防災計画の作成支援を行う。<br><br>・ハザードマップや避難カードの活用方法について啓発し、自らが作成した後、近所や地域の方へ避難カードやマイタイムラインの作成を促せるような「近助」の防災力が向上する取組を行う。<br><br>・コロナ禍においては避難所の受け入れ人数の大幅な減少が見込まれるため、避難カードの活用方法等の啓発に合わせ、「分散避難」の啓発を行う。 | ・区民アンケート で「自宅の浸水想定を知っている」と回答する割合　60%以上<br><br>【撤退・再構築基準】<br>・上記割合が40%未満であれば事業を再構築する。 |
| | 前年度までの実績 |
| | 【3年度】<br>・防災訓練 1回（3年9月末現在）<br>・広報紙（毎月連載、特集2回）（3年9月末現在）<br>・防災人材育成（キックオフイベント1回、導入編講座1中学校）（3年9月末現在）<br>【2年度】<br>・防災訓練（6回）<br>・広報紙・ホームページ（各4回）<br>【元年度】<br>・防災訓練（15回）、防災講演会（2回）、広報紙・ホームページ（各5回）、区民まつり（1回） |

**中間振り返り**

| プロセス指標の達成状況 | | |
|---|---|---|

①：目標達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>―：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

課題と改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**自己評価**

| 当年度の取組実績 | 課題　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 |
|---|---|
| プロセス指標の達成状況 | 改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 |

①：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施（ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成（ⅰ)取組は予定どおり実施（ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>―：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

## 具体的取組３－１－２　【減災のための環境整備】

| ２決算額 | 523千 円 | ３予算額 | 1,225千 円 | ４算定見込額 | 1,274千 円 |
|---|---|---|---|---|---|

### 計画

**当年度の取組内容**

・津波避難ビル等の避難場所や備蓄物資の充実を図るとともに、すみのえ情報局などを活用し、地域貢献を行う意思を有する企業・事業所、NPO・ボランティア団体等に災害対策に必要な協力を行っていただく「防災パートナー」の増加に向けて啓発し、依頼を行う。

・津波避難ビルの表示板未設置個所への増設及び災害時避難所の表示板及び誘導表示板の変更を行う。

**プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）**

・防災パートナーの新規登録件数　2件以上
【撤退・再構築基準】
・上記件数が0件であれば事業を再構築する。

**前年度までの実績**

【3年度】
・防災パートナー新規登録件数 3件（3年9月末現在）
・津波避難ビル表示板設置 4か所（3年9月末現在）
【2年度】
・南港4地域に災害備蓄用パン、紙おむつ等を配備
・津波避難ビルの表示板設置
【元年度】
・南港4地域に災害備蓄用パン720缶、大人用紙おむつ420枚、
・子ども用紙おむつ936枚、生理用品4,320枚　配備
・津波避難ビル表示板　5基設置

### 中間振り返り

**プロセス指標の達成状況**

①：目標達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

**課題と改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

### 自己評価

**当年度の取組実績**

**課題**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**プロセス指標の達成状況**

①：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成（ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

**改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

## めざす成果及び戦略　３－２【犯罪のない安心して暮らせる環境の実現】

**計画**

| めざす状態＜概ね３～５年間を念頭に設定＞ | 戦略（中期的な取組の方向性） |
|---|---|
| 地域や関係機関と連携し、一体となって街頭犯罪の抑止並びに特殊詐欺の被害防止に取り組むことによって、区民の日常生活での安全を確保できている状態 | ひったくり、路上強盗などの街頭犯罪や還付金詐欺、オレオレ詐欺などの特殊詐欺等の犯罪に対する正しい防犯知識の普及と防犯意識の醸成により、犯罪を寄せ付けないまちづくりをすすめる。<br>また、警察などの関連部署や地域との連携のもと、みんなの目が行き届いた、犯罪を実行しにくい安全・安心なまちをめざす。 |
| アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）<br>令和7年度末までに、区民アンケート で「安全・安心に暮らせるまちである」と回答する割合 80%以上 | |

**自己評価**

| 戦略のアウトカム指標に対する有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、戦略を見直す |
|---|---|---|

| アウトカム指標の達成状況 | 前年度 | 個別 | 全体 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |

A：順調　B：順調でない

| 戦略の進捗状況 | | a：順調<br>b：順調でない |
|---|---|---|

| 課題　※有効性が「イ」の場合は必須 | 今後の対応方向　※有効性が「イ」の場合は必須 |
|---|---|
| | |

---

## 具体的取組３－２－１【防犯意識の向上に向けた啓発】

| ２決算額 | － 円 | ３予算額 | － 円 | ４算定見込額 | － 円 |
|---|---|---|---|---|---|

**計画**

| 当年度の取組内容 | プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） |
|---|---|
| ・特殊詐欺に狙われやすい高齢者への対策として、金融機関を訪れた高齢者に特殊詐欺被害防止の呼びかけと、啓発内容を掲載したチラシ等を配付し、特殊詐欺被害を未然に防止するための取組を行う。<br><br>・防犯意識の向上に向け、安まちメールの情報を元に、防犯出前講座等の機会を捉え、大阪府内で発生した特殊詐欺の手口や住之江区内で発生した犯罪事案の注意喚起を行う。合わせて特殊詐欺についてのクイズを行い、参加者の理解を深める取組を行う。 | ・区民アンケート で「区の取組は区民の防犯意識の向上に役立っていると思う」と回答する割合 70%以上<br><br>【撤退・再構築基準】<br>・上記割合が40%未満であれば事業を再構築する。 |
| | 前年度までの実績<br>【3年度】<br>・特殊詐欺被害防止キャンペーン 1回（3年9月末現在）<br>・防犯出前講座実施 1回（3年9月末現在）<br>【2年度】<br>・特殊詐欺被害防止キャンペーン及び防犯出前講座について、コロナ渦による感染症拡大防止のため未実施<br>【元年度】<br>・特殊詐欺被害防止キャンペーン実施　8回<br>・防犯出前講座実施　47回 |

**中間振り返り**

| プロセス指標の達成状況 | | |
|---|---|---|

①：目標達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>―：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

| 課題と改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 |
|---|
| |

**自己評価**

| 当年度の取組実績 | 課題　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 |
|---|---|
| | |
| プロセス指標の達成状況 | 改善策　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 |
| | |

①：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成 （ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

| 戦略に対する取組の有効性 | | ア：有効であり、継続して推進<br>イ：有効でないため、取組を見直す<br>―：プロセス指標未設定(未測定) |
|---|---|---|

## 具体的取組３－２－２　【街頭犯罪抑止のための環境整備】

| ２決算額 | 741千 円 | ３予算額 | 995千 円 | ４算定見込額 | 995千 円 |
|---|---|---|---|---|---|

### 計画

**当年度の取組内容**

・青色防犯パトロールカーなどにより、安まちメールで配信のあった情報をもとに、巡回強化ポイントを設定し、地域の巡回パトロールを実施する。

・区役所や商店街などで、ひったくり防止カバー取付キャンペーンを実施する。

・区役所管理の防犯カメラについて、巡回時の目視点検や業者委託点検により、適正な運用を確実に行う。

**プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）**

・区民アンケート で「区の取組は街頭犯罪抑止に効果があると思う」と回答する割合　70%以上

【撤退・再構築基準】
・上記割合が40%未満であれば、事業を再構築する。

**前年度までの実績**

【3年度】
・青色防犯パトロール　午前午後合計 4コース（3年9月末現在）
・ひったくり防止カバー取付キャンペーン実施 2回（3年9月末現在）
【2年度】
・青色防犯パトロール　午前午後合計 4コース実施
・ひったくり防止カバー取付キャンペーン実施 8回
【元年度】
・青色防犯パトロール　午前午後合計 4コース実施
・ひったくり防止カバー取付キャンペーン実施 26回

### 中間振り返り

**プロセス指標の達成状況**

①：目標達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
②：目標未達成(見込)（ⅰ)取組は予定どおり進捗 （ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
③：撤退・再構築基準未達成

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

**課題と改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

### 自己評価

**当年度の取組実績**

**課題**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

**プロセス指標の達成状況**

①：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
②：目標未達成 （ⅰ)取組は予定どおり実施 （ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
③：撤退・再構築基準未達成

**戦略に対する取組の有効性**

ア：有効であり、継続して推進
イ：有効でないため、取組を見直す
―：プロセス指標未設定(未測定)

**改善策**　※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須